中等科・高等科

共生共学に向けた生徒の取り組み

山縣　基

2024 年度からの共生共学に向けて、生徒が係を立ち上げ、残り 1 年間という限られた期間で、試行錯誤しながら女子部と男子部の中高の生徒で話し合いを積み重ねて 24 年度を迎えた。これは、その過程の概要を記載したものである。

1. 共生共学の係の立ち上げ

22 年度の 3 学期に当時の女子部高等科1年生の一部の生徒が、共学化まで残り約 1 年のなか、日常生活の具体的なことは何も決まっていないことに危機感を持ち、係を立ち上げた。その後、男子部高等科 1 年のクラスにも声をかけ、係が出て、活動を始めた。22 年度には、共学化した際に最高学年になる自分たちが、まずクラスの関係づくりをした方がよいと考え、男女合同のリクリエーションを数回、実施した。

23 年度の 4 月には、高等科 2 年の係が中 2～高 1 の係も募集し、各学年男女6～7 名が集まって活動を開始した。1 学期には、女子部と男子部のそれぞれの日常の様子を知るために全学年から希望者を募り、「交換留学」と称し、朝の挨拶である本鈴や礼拝、昼食などをお互いに体験する機会を設けた。

2. 1学期の共学化に向けた生徒の話し合い

共学化に向けての話し合いをどのようにするかを考えるために 2 週に 1 度の頻度で、水曜日の解散後にファシリテーターの林田暢明氏を交えて係でミーティングを行い、別日にも係だけで話し合う時間を持った。

最初は、何を話し合う必要があるかを考え、労作・自治区域の中高区分、委員選挙の方法、委員の役職、中高のつながり、校章・校歌、食器、生活時間の見直し、本鈴・解散、鐘・板木、習字、伝統についての項目があがった。そして、これらの項目の中から話し合う優先順位を考え、委員選挙の方法と委員の役職から話し始めることにした。それらを話し合う方法については、共学時の学校での服装をどのようにするかを 22 年度に話し合った手法である「ワールドカフェ」を用いることにした。そして、最初は全校で話すのではなく、学年ごとに男女合同で、委員の本質を考えることから始めることにした。それは始めから委員の役割の具体的な話をすると、それまでのやり方に囚われてしまいがちになるために、委員は何のためにあるのかという本質から考えることをねらいとした。

学年ごとの話し合いのファシリテーションは自分たちで行うことにし、6 月 14 日に中 2～高 2 で 4 会場に分かれて実施した。しかし、学年によってはふざけてしまう生徒が出るなど思うようにいかない結果となった。

その結果を受けて、2 学期以降どのように話し合いを進めていけばよいのかを係で相談し、①全員が参加できるように授業時間内に話し合いの時間をとり、希望者で話し合う、②全校で話し合う時間もとる、③委員会のところから話し合う、の 3 つを軸に実施することにした。

3. 2 学期の共学化に向けた生徒の話し合い

2 学期は以下の日程と内容で話し合いを実施した。

	時間	参加者	内容
9/25(月)	6 時間目	希望者	委員の役職
10/17(火)	6 時間目	希望者	委員の役職
10/28(土)	2～4 時間目	全校	全体共有と決定
10/30(月)	6 時間目	希望者	委員期間、選挙方法
11/10(金)	6 時間目	希望者	寮の委員
11/25(土)	解散後	希望者	係と委員の分担
12/ 9(土)	1～4 時間目	全校	全体共有と決定

(1)委員の役職についての話し合い

23 年度時点で高等科 3 年の委員長と高等科 2 年の副委員長が女子部、男子部でそれぞれ 1 名ずついるところを、共学化した際にはどうするのか、また他の委員はどのような役職にするのかについて話し合った。

話し合いは、OST(Open Space Technology)という自分が

話したいテーマのところに行って話しをするという手法で行った。事前に共生共学の係が委員のいくつかの案を提示し（下表 A～D 案）、話し合いでは、自分が話したい案のところに自由に集まって他の人と対話を行った。その際、新しい案をつくることも可能で、細かく分けると合計 17 案が出され、それぞれの案に関する対話の結果を共有した。そして、17 案から次回の話し合いに残しておきたい案を 1 人 3 つ選んで投票を行い、4つの案に絞った。

		A 案	B 案	C 案	D 案
高等部	委員長	男子 1 名 女子 1 名	1 名	男子 1 名 女子 1 名	1 名
	副委員長	男子 1 名 女子 1 名	男子 1 名 女子 1 名	1 名	1 名
	寮長	各 1 名	各 1 名	各 1 名	各 1 名
中等部	委員長	男子 1 名 女子 1 名	1 名	男子 1 名 女子 1 名	1 名
	副委員長	男子 1 名 女子 1 名	男子 1 名 女子 1 名	1 名	1 名

10 月 17 日の話し合いでは、4 つの案を基に同様に対話を行って 2 案に絞り、10 月 28 日の全校での話し合いではワールドカフェ方式で対話を行い、投票の結果、A 案にすることが決まった。

希望者で話し合った会議の後には、共生共学の係が新聞を作成し、各教室やトイレに掲示したり、昼食時間等にプレゼンをするなど、全員が内容を把握することができるようにした。

⑵その他の内容

委員の役職について話し合った手法を用いて、その他の内容についても話し合った。その結果、委員期間は 5 期制、委員長・副委員長選挙は中高で分かれて実施し、寮長選挙は各寮生で実施することが決まった。委員選挙の細かい方法や係と委員の役割分担等の結果については割愛する。

4. 3 学期の共学化に向けた生徒の話し合い

1 学期の最初に係が話し合う項目をあげた中で、校章・校歌、食器、生活時間の見直し、本、習字、伝統については係で相談し、23 年度には話し合わず、現状維持で 24 年度を始めることにした。3 学期は、それらを省いた残りの項目について、次の日程で話し合った。

	時間	参加者	内容
1/12（金）	6 時間目	希望者	寮の委員
1/15（月）	5～6 時間目	全校	全体共有と決定
1/27（土）	解散後	希望者	本鈴・解散、鐘・板木
2/13（火）	6 時間目	希望者	中高のつながり
2/27（火）	2～3 時間目	全校	全体共有と決定

その結果、寮の委員については、清風寮と東天寮では寮生の人数にかなり差があり、さまざまな制度も異なるため、無理に委員制度を統一せずに各寮で運用しやすい方法をとることになった。本鈴・解散については、中高ともに本鈴は各部で実施、解散は、高等部は単位制となり、授業の終わる時間が異なるので、クラス毎に実施することになった。時間を知らせる鐘・板木については、これまで使用していたものを使い、中等部の板木を叩く木槌が重いため、いくつかの大きさを用意することや、高等部の鐘は授業間では鳴らさず各自で時間を見て動くことになった。中高のつながりについては、中高の合同礼拝の週 1 回実施、昼食を中高混ざって定期的にとること、行事等の中高合同での実施、委員会の中高合同総会の定期的実施等によって保つことにした。

5. 実装に向けた取り組み

全校会議で決まった 24 年度の方針に基づき、詳細を詰め、実際に運用できるようにする取り組みを 12 月中旬から 3 月にかけて行った。それらは、中 1～高 2 の各学年から出した男女数名ずつの係で取り組んだ。中高の委員会の細かい役割、委員更迭式の日程、選挙方法の細部を詰め全校にプレゼンし、意見集約をした。そして、最終案を 2 月 27 日の全校会議で発表し、それを基に共学化した中高のさまざまな仕組みが始まった。

6. まとめ

今回の話し合いは、誰もが初めての経験で、試行錯誤の連続だった。係の生徒も、もっと質のよい対話をして、よりみなの納得解を得られるようにしたかったという思いもあった。しかし、限られた時間のなかで結論を出さなくてはいけない状況であったため、その時点でできる取り組みは精一杯したとも言える。今後、よりよい学校つくりのために、教職員や生徒が対話や合意形成の方法を学びながら、定期的に話し合いを実施していくことが大切になると思っている。